



地元商店街の未来

岡山県・岡山県立岡山南高等学校 3年 高森 日奈子

私の住んでいる岡山市には岡山駅の近くに駅前商店街と奉還町商店街、岡山城の近くに表町商店街がある。どの商店街もかつては岡山の経済の中心地であり、大変賑わっていた。しかし、今の商店街はシャッターを下ろしたままの商店や、通行人すらまばらな商店街もあり、活気を失っているといっても過言ではない。私自身、商店街を歩くことがあるが、休日・祝日でさえも人通りが少なく、シャッター街という言葉がぴったりではないかと思うことがある。また、岡山市商店街通行量調査によると、平成20年の通行量が調査地点によっては、約50年前の10分の1以下になっているところもある。さらに、今年の11月に年間2,000万人の集客を見込むと予測される、中四国最大規模のショッピングセンターが岡山駅南地区にできる。新聞やニュースでは商店街は客と売り上げを瞬く間に奪われてしまうのではないかと、と日々報道されている。

岡山市としては、この状況をどう考えているのか気になった私は、市役所へ話を伺いに行った。するとまず、市役所の方は「どうして商店街がなくなると良くないのか考えたことはありますか。」とおっしゃった。私は、商店街がなくなってしまうと商店街の人が生活できなくなるからだと、ただ漠然と考えていた。しかし、市役所の方は「商店街がなくなるということは、岡山市の歴史と魅力を失うということと同じ。」とおっしゃった。商店街というものは、その地域の経済・歴史と深く結びついており、昔から商店街と地域はお互いに支えあう関係にあった。その例として、表町商店街には、明治29年から「備前岡山ええじゃないか 大誓文払い」が岡山の秋の風物詩として現在も行われている。奉還町商店街でも昭和50年から続く商店街の名物イベント「一二三市」が現在も行われており、経済・歴史・地域が深く商店街と結びついていることが分かる。また、商店街はコミュニティの拠点であり、歴史、文化を継承する場所で、どの商店街もその地域独特の暖かさ、地域性、賑わい、雰囲気を持っている。つ

まり、その商店街を失うということは岡山市の歴史や魅力を全て失うことと同じである、ということだ。ショッピングセンターなどの大型商業施設の出店は、経済的な豊かさや便利さをもたらすかもしれない。しかし、地域の独自性のない商業施設が駅近くにできることにより、地域のアイデンティティが失われてしまうことが問題、というのが市の考えであった。そのように考えたことのない私は、なるほどと思ったのと同時に商店街の人たち自身はどう考えているのか、疑問に思った。

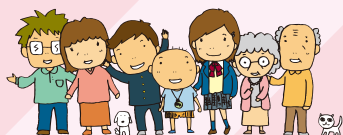
そこで、次に私は奉還町商店街を訪れ、商店街復興組合の方にお話を伺った。さらに、表町商店街で、街づくり会社を営む社長の方の講演会を聞いた。どちらの商店街も、かつては大変賑わっていたものの、近年、郊外型の大型店の影響や、消費者のライフスタイルの変化などにより厳しい環境にさらされている商店街だ。様々なお話を聞かせていただき、大変印象に残ったことが二つある。

一つ目は、商店街という組織の結束力の弱さだ。つまり、商店ごとにやる気がバラバラで、消費者のニーズに応えようとしなない一部の店主のために、志のある店主の活動が妨げられているということだ。例えば、商店街復興組合の方が、商店街を活性化しようと様々なイベントや、新規事業を計画したとき、その合意形成は非常に難しく、最初から計画そのものに興味を持たない店主や、やる気のない店主が多い、という現状があるそうだ。背景には、店主は一国一城の主でもあり、その店その店で考え方が異なっていることや、店の経営に関して他者の干渉がはばかられ、敬遠されるなどの事情がある。さらに、店主の高齢化に伴う収入増加への意欲低下、後継者不在による店舗経営継続の意志薄弱などもあり、活性化に対して商店街としての意見の一致がなかなか見出し難くなっている。

「商店街を活性させるのは、誰でもない当の店主たち。しかし、何もしなくて現状のままを期待するだけの店主は多い。その上誰もが『おつきあいならするよ』の姿勢だから、いつまでもリーダーは不在。護り^{まも}りに入った商店街に魅力は消え、ますます客は遠のいていく。」^{注)}

このような負の連鎖が地元の商店街にも起きようとしていた。

二つ目は、商店街における若い力だ。特に奉還町商店街では、商店街のコミュニケーション施設「奉還町りぶら」を拠点とし、学生との連携に力を入れてい

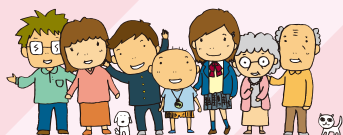


る。週末には地元の高校生が企画をした様々な店を出したり、大学生が「おかやま百年構想」というプロジェクトも行っている。高齢化の進む商店街において、若い力というのは、欠かせないという。若い人の感性・発想は商店主にはないものが多く、実際に商店街で活動してくれることで、昔ながらの商店街の古い体質がなくなるそうだ。さらに、若い人ならではの考えで地域の活性化につながり、その力には大変感謝しているとのことだった。

また、若者と連帯して商店街を盛り上げていくことにはもう一つの大きなメリットがある。それは、高校生や大学生が、これから社会に出ていく存在であることが大きい。一緒に商店街を盛り上げた記憶が、社会に出た後や家庭を持った後に、再び商店街を訪れる動機になる、つまり将来のお客さんになる存在でもある、ということだ。このように、商店街を活性化するには、私たちのような若い力が大きな役割を担っている。

実際に商店街の活性化に尽力している方の話を伺って、改めて商店街の現状を知り、課題が見えてきた。これからの商店街に求められることや、何百年先も商店街があり続けるために、しなければならないこと。今、岡山の商店街は転換期にあり、ピンチとチャンスと同時に迎えている。商店街は人の心に深く刻まれる街の風景として、また、地域の人々の大切な買い物場として、地域のコミュニティの拠点という機能を果たし続けていかなければならない。そのためにはまず、地元の商店街利用者のニーズを知る必要がある。これは、奉還町商店街も表町商店街もニーズ調査を現在進行形で行っている。しかし、最も重要なのは、そこから商店街の店主たちが一丸となり持続的な戦略を立て、主体的に実行していくことではないだろうか。商店街が目指すビジョンや、未来をはっきりさせ、商店街自らが発信していくことも重要だ。同時に、行政の支援、地域の理解も求められるだろう。そして、私もこの街の住人として、これからの地元の商店街の未来についてより深く考え、発展に貢献していきたい。岡山の歴史・魅力としてこれからも商店街を残し、伝えていくために。

注) 株式会社都市研究所スペース「～やわらかな共同連帯化～商店街 一国一城の主たち」社外報『RUB A DUB』第3号
URL <http://www.spacia.co.jp/rubadub/2000/syouten.htm>



<参考文献>

- ・加瀬清志『日本でいちばん元気な商店街 やる気で変わる！ 地方の商店街復活への道』ほおずき書籍、2012年
- ・三橋重昭『よみがえる商店街 5つの賑わい再生力』学芸出版社、2009年
- ・岡山市「岡山市商店街通行量調査：昭和41年以降通行量推移」
URL <http://www.city.okayama.jp/contents/000199783.xls>
- ・岡山政経塾 チーム21 西美篤「取り組むべき現状と課題、そして未来のための対策」、「岡山市中心市街地の現状と、未来への取り組み～市民の声から～」2008年度
URL http://www.oskj.jp/team21/team21_03.html

